



# ジュネーブ週末の散策ポイント

株式会社NTTドコモ 無線標準化推進室長 はしもと あきら  
橋本 明

スイスには休日を過ごすのに好適の地はいくらでもあるが、ITU会合では週末に会議が滞り止まることも珍しくなく、楽しみに計画していた旅行が不幸にして実現できないこともある。そこで本稿ではごく短時間で訪問できるジュネーブ市内のスポットを御紹介する。いずれも交通費ゼロが魅力のひとつかもしれない。紙面の都合で地図は掲載していないが、各々の正確な場所についてはWebで検索可能である。

## サティニー (Satigny)

ジュネーブ市郊外にあるSatignyへ行くには、観光案内書によるとローヌ河下りの遊覧船を利用するのが良いとあるが筆者はいつもコルナヴァン (Cornavin) 駅からローカル電車を利用する。この電車は5番線から発車するのだが、Cornavinでは4番線の隣りは6番線になっていて、5番ホームがなかなか見つからない。5番線は長距離列車が出入りする他のホームと異なり、4番線と6番線に挟まれたPlatformの空港寄りの一部を少し削ってローカル線電車が出入りするようになっている。

休日ダイヤでは1時間に1本程度のLa Plaine行き電車に乗ると10分余りでサティニー駅 (Satigny Gare) に到着する(写真1)。この電車はホテルが支給する市内バス券が通用するので旅行者は無料で乗れる。サティニーはジュネーブ最大

のワインの産地として知られており、実際10年ほど前までは、駅前からワイン畑が広がっていたが、最近の駅周辺には新しいマンションが目立つようになった。

駅から進行方向へ線路の左側を歩き、マンションの脇を経て左へとカーブする道を進むとSport Clubがある。テニスコート、サッカー場を左手に見て更に進むとジュネーブ市内とは思えない自然豊かな渓谷に出る(写真2)。そこからは地元でNant d'Avril遊歩道と呼ばれる散策コース。起伏のある林道をしばらく歩くと溪流は次第に川幅を増し緩やかな小川に変わり、やがてローヌ河本流へと注ぐ。河口付近は多くの水鳥の生息地になっており、その付近でキャンプを楽しむ人もいる。ここで遊歩道は一転して幅広の舗装道路に変わる。左手には小さな店があり、この辺でのどが渴いた人には適当なDrink摂取場所である。さらに歩くと、駅から約45分でペネイ橋 (Pont de Peney) に着く。橋の中程からは兩岸を緑に囲まれた大河ローヌと遠くにSalève山を望む広大な景観が広がり、先刻のローカル色豊かな溪流沿いの雰囲気と鮮やかな対照をなしている。

サティニー駅から往復約1時間30分-2時間の行程であるが、ジュネーブへ帰る電車の時刻は着いたときにあらかじめ駅で調べておくと良い。



写真1. サティニー駅



写真2. Nant d'Avril遊歩道沿いの溪流



写真3. Trembley公園からのモンブラン



写真4. 平和の庭園の由来を記したプレート

### Trembley緑地公園とJardin de la Paix (平和の庭園)

筆者が常宿として利用するHotel les NationsからITUへ向かう通り道のAvenue Giuseppe Motta沿いにある広い緑地公園 (Parc de Trembley) は散歩・ジョギングには好適である。サッカーコート手前のあまり目立たない入口から緩やかな傾斜の散歩道を公園中心地へと歩くと、Salève山を正面に拝する見晴らしの良い地点へ出る。天気の良い日にはここからレマン湖の噴水とともにモンブラン (Mont Blanc) も見える (写真3)。この公園の一角には、子供用プールや小さなBasket ballコートがあり、またPetit-Saconnex小学校の敷地ともつながっていて、夏場は家族連れで結構賑わっている。

公園を縦断して反対側道路へ出ると3番のトロリーバスが走るMoillebeau通りに入る。この道はRestaurant Café du Soleilへ向かうルートであるが、途中の表通りからやや北側へ引込んだ位置に鉄柵で囲まれた庭園 (Jardin de la Paix) の入口がある。中には花壇、緑の芝生、めだかや鯉が泳ぐ池があり、奥には温室も配置されている。地元の人あまり訪れることのない静かな空間である。ここの花壇は、黄色、オレンジ、赤、青と紫、という具合に花の色に応じて配列されている。地続きの隣家の人が日常管理をしているらしく常に季節の花を彩り鮮やかに咲かせている。

最近、隣地との境界壁面に小さな金色のプレートが取り付けられているのに気がついたので (写真4)、そこに書かれた庭園の由来に関するフランス語の意味をITUの小泉純子さんに解説して頂いた。それによると、2003年8月19日アルカイダによりバグダッド国連事務所が爆破され、当時ジュネーブのOHCHR (国連人権高等弁務官事務所) 所長であったセルジオ・ヴィエイラ・デ・メロ氏をはじめ多くの国連職員

の命が失われる事件があった。その時の犠牲者22人を追悼するために本庭園が開園されたとのことであった。Jardin de la Paixがその名のごとく「平和」を願うために造られたと知ってから、他の公園とは異なる静けさと荘重さを一層感じるようになった。

### Jardin Botanique (植物園)

ここはジュネーブ市民の憩いの場であり、観光スポットの一つとしてもよく知られているので、既に訪問された方も多いと思われる。市バスのターミナルでもあり、コルナヴァン駅からは1番、ITUからは11番に乗り終点で降りればよい。天気の良い日にはモンブラン橋寄りからレマン湖畔に沿って歩くと30分-40分くらいで到着する。途中大噴水を対岸に見て、Pâquis灯台、モン・ルポ公園、レストランPerle du Lac前を通過して更に進む。WTOの裏庭を過ぎると道が湖を離れて左側にカーブし、ローザンヌ通りの下を潜って、正門を通らずにJardin Botanique植物園の中に至る。この散策コースでは会議の外国代表と顔を合わせることも多い。

寒い日には湖畔の散歩で冷えた体を熱帯植物が収容されている温室で温めると元気が出る。正面入口近くの一画には日本式庭園もあり (園の看板では中国・日本式となっているが) (写真5)、この辺りはいかにも植物園という雰囲気である。植物名は全てプレートにフランス語で表記されているが (そのため難しく覚えられないが)、点字でも併記されているものがあることに行き届いた配慮が見られる。

この植物園には動物もいる。それで特に子供に人気があるようで、奥へ進むとフラミンゴをはじめ多くの水鳥が集う池があり、さらに鹿、やぎ、羊も飼育している。時には通路に

放し飼いの孔雀にお目にかかることもあるので、植物に関心のない方も結構楽しめる。

本稿にて特に紹介したい場所は鹿の檻や水鳥の池を通り過ぎて道路一つ越えた先にある広大な緑地である。ここはいわば分園のような敷地であるが、訪れる人の数は極端に少ない。それは見物すべき対象があまりないからでもあるが、道路から入って左手の上り坂の歩道を進むとやがてJardin Botaniqueの最高地点へ到達する。ここは標高だけでなく、植物園の緑地とアルプスの雪渓、そして木立の間にはレマンの湖面を同時に見渡せる景観の点でも最高のスポットである。付近には薔薇のアーチ下のベンチ以外に腰を落ち着ける所は少ないが、ゆったりしたスペースと人のいない静寂を味わうには格好の場所である（写真6）。



写真5. Jardin Botaniqueの日本式庭園



写真6. Jardin Botanique最高地点からの光景

## 国連欧州本部の中庭

Palais des Nations として知られる国連欧州本部は国際都市ジュネーブを象徴するビルであり、あえて紹介する必要はないかもしれない。本稿掲題の「週末」には中に入れないが、ITU会議参加者の多くが昼休みに訪れる場所として知られている。カフェテリアから良く見える広い中庭は散策に好適であるので昼食後は是非足を延ばすとよい。そこには神話に登場するような鳥獣を浮き彫りにした球形の彫刻がある。昔は金色に輝いていたその表面も今や老朽化が進み色あせて来たが中庭のシンボルとしての役割は果たしている（写真7）。この彫刻を囲む池にはコインが投げられており、さらに池の淵に貼られた小さな板に何かの注意書きが記載されているのに最近気が付いた。「池にお金を入れれば幸福になります」とでも書いてあるのかと思って、フランス語に堪能な日本の女性代表に意味をお聞きしたところ「この池に投げられたコインは難民救済のために使われます」との意味と分かった。国連機関はITUに限らず寄進推奨に熱心のようなのであるが伝言表示だけのためか協力している人は少ない。



写真7. Palais des Nations中庭の彫刻